

又清商生實ヲ長崎へ持來ル者アリ、形樞實ノ如ニシテ肥潤ナリ、長サ一寸餘皮ハ綠色、熟スルニ至リテモ色變ゼズ、故ニ青果ノ名アリ、能魚毒ヲ解シ、骨哽ヲ治ス、核ハ六稜ニシテ厚ク硬シ、破レバ三孔アリテ、各細長仁アリ、故ニ新鮮ナルヲ下種スレバ、一核ニシテ三苗ヲ生ズ、初メ生ズル葉ハ細葉ノ胡枝子葉ノ如キ者兩對ス、其上ニ出ル葉ハ加條ノ葉ノ如ク、細鋸齒アリ、互生ス、樹已ニ長ズルモノハ、變ジテ鋸齒ナク、無患子ノ葉ノ形ノ如ニシテ短ク厚シ、枝梢ニ花ヲ開キ實ヲ結ブ、然レドモ寒地ニテハ枯レ易シ、長崎崇福寺及ビ薩州ニハ實ヲ結ブ者アリ、自生ハ本邦ニナシ、核ヲ採リ、咽喉腫痛骨哽ヲ治ス、今青果膏トテ、ラクガンノ形ノ如ク、錢許ノ大ニ製シ舶來ス、淡綠色或ハ淡黃色、ヨク魚毒骨哽及ビ傷食ヲ治ス、

〔八僊卓燕式記〕小菜八品略○中

橄欖 福州ヨリ産ス、木ノ實ナリ、此ヲ生ニテ醬油ニ漬出ス、此實鹽漬又ハ生ニテモ長崎へ多來ル、橄欖ノ樹、長崎崇福寺内竹林院ニアリ、年々實ヲ生ズ、他邦ニ植レドモ生長シガタシ、

〔本草和名〕^{十四}棟實仁、^{十四}棟實仁、^{十四}棟實仁、和名阿布知乃美

〔倭名類聚抄〕^{二十}棟 玉篇云、棟音練、本草云、阿布智、其子如榴類、白而黏、可以浣衣者也、

〔箋注倭名類聚抄〕^十本草和名木部下云、練實仁音義作棟、音練、和名阿布知乃美、^{○中}說文、棟木也、郭注中山經云、棟木名、子如指頭、白而黏、可以浣衣也、顧氏蓋依之、今玉篇木部作木名子、可以浣衣、係後人刪節、

〔伊呂波字類抄〕^阿植物附植物具、棟音練、アフチ、其實如指頭、 樗 棟實アフチノミ

〔東雅樹竹〕^{十六}棟アフチ 萬葉集に相市之花と云るしてアフチと讀みけり、倭名抄に玉篇を引て其子可以浣衣者也、和本本草に、アフチといふと注したり、アフチの義不詳、棟は即苦棟、其子は金鈴子といふ、俗にセンダンといふ是也、近俗樗の字讀てアフチといふは、此物をいひしなるべし、^俗